

## 会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和5年度瑞穂町子ども・子育て会議（第2回）	
開 催 日 時	令和5年12月5日（火）午後6時30分から午後7時40分まで	
出席者及び 欠 席 者	【出席者】委員11名、事務局3名、コンサルタント2名 合計15名 【欠席者】委員1名	
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 第3期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について 4 その他 5 閉 会	
傍 聴 者	2名	
配 布 資 料	当日配布 ・ 次第 ・ 第3期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査イメージ（案） 事前配布 ・ 第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査報告書 ・ 設問事項確認表	
会 議 内 容 （主な意見 等を原則と して発言順 に記載。）	1 開 会 （会長）  2 あいさつ  3 議題  （事務局）	<p>本日の出席委員は現時点で10名であるが、後程1名遅れて出席する。瑞穂町の規定では半数以上の委員の出席で会議成立となるため、開会する。</p> <p>会長あいさつ 今回のニーズ調査をしっかりと行うことで、支援しやすい環境づくりや新たな発見ができるといい。</p> <p><u>第3期子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について</u></p> <p>今回のニーズ調査は業務委託をして実施する調査である。 主な業務内容は調査票の作成、発送、回収、集計、報告書の作成である。</p>

ニーズ調査票について。子ども・子育て支援事業計画は、国の指針では「5年を1期とする市町村子ども・子育て支援事業計画を定める」とされており、令和2年度に開始した現行の計画は、令和6年度に終了する。第3期計画を令和7年度から実施するに当たり、今年度は計画策定に伴う量の見込みの算出を行うためにニーズ調査を実施し、来年度の令和6年度に計画の策定を行う。

今回、案として作成している調査票については、第1期の事業計画策定に当たって国が作成した「手引き」及び今年9月に国が作成した「算出のための考え方」等を参考にして作成した。

調査の対象者は、令和5年11月24日までに住民基本台帳に登録のある0歳から小学校6年生までの児童で、未就学児が1,182人、小学生が1,490人である。調査票は対象児童のいる家庭一世帯に1通を予定し、複数の未就学児がいる家庭には一番下の年齢の児童宛に発送する。小学生がいる世帯も同様だが、未就学児世帯は全世界帯に発送するため、重複しないように、小学生のみがいる世帯の一番下の児童宛に発送する。現在抽出作業をしているが、発送する調査票は、未就学児の保護者882名、小学生の保護者787名を予定している。

印刷と発送はこの会議で承認いただいた内容を反映させた後、すぐに取りかかり、発送は12月20頃を予定している。

提出期限は来年の1月12日とさせていただき回答を依頼する。また、未提出の方への催促を兼ねたお礼状を1月の期限前に発送する予定である。

その後、集計作業に取り掛かり、調査報告書の内容を2月下旬又は3月上旬に皆様にお諮りし、調査結果報告書を3月下旬までに作成する予定である。

なお、調査票の発送時に町ホームページ等で住民の皆様にご周知させていただき、広報みずほ1月号でも提出期限等についてのお知らせを予定している。

		<p>次に、今回調査の設問項目について。今回のニーズ調査も前回同様、国の手引きに基づき、前回の設問項目を基本として作成している。資料「設問事項確認票」のとおり、前回との変更点のみ確認する。</p> <p>最後に、この調査は令和7年度から始まる第3期計画の中で、確保を図るべき教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握するためのものである。住民の皆様アンケートができるよい機会ではあるが、回答する側の負担を軽減するために、必要最低限の設問にしたいと事務局では考えている。委員の皆様にはご理解をお願いします。</p> <p>(委員) 未就学児の資料6ページの問11の2の項目において、「ファミリーサポートセンター」の注釈について明記されていなかったため、初めから注釈を入れるべきである。</p> <p>19ページの問35の項目においても、月齢が決まっており、当てはまらない家庭が多いのではないかと感じる。例えば、「〇か月までのお子さんをお持ちの方」等、冒頭に注釈を入れるべき。</p> <p>(事務局) 乳幼児、ショートステイは幅があると思う。その他は（堀池委員の）おっしゃるとおり。最初に注釈を入れるという意見もおっしゃるとおり。</p> <p>また、表紙のQRコードを読み取ると「子育てほっとブック」を見ることができるようになっている。ファミリーサポートセンターの内容についても詳しく書かれているため、そちらも活用してほしい。</p> <p>(委員) 前回のニーズ調査と比較して文字が大きく、見やすくて、とてもいいと感じた。</p>
--	--	--

	(委員)	(未就学児) 問 3 3 の項目について、以前のデータはあるのか。
	(事務局)	今回から新たに設定された質問であるため、以前のデータはない。
	(委員)	(未就学児) 問 3 2 の項目について、質問と狙いのつながりが弱いように感じるが、どのような回答を望んでいるのか。
	(事務局)	回答の選択肢を 7 つ用意する予定 内容は資料のとおり
	(会長)	実際に子育て中の方がこれを受けたときにどのような感想を受けるのか、わからないことがあれば教えてほしい。
	(委員)	(未就学児) 問 3 2 の項目について、この内容とは反対に、「子育てに関して不安や負担等を感じますか」という項目があるが、楽しみを聞くことは今後につながるようなことだと思うが、不安や負担についてはどのようなことが不安なのか具体的に問うべきものだと感じた。
	(委員)	確かに産後うつや孤立からの虐待等はよく聞く話である。
	(委員)	マイナスな意見からいい方向に繋げることが必要なのではと感じる。
	(事務局)	紙面の都合もあるため、項目の内容以外で記入したいことがあれば自由記述欄を使用してほしい。国から指針も出ていることから当該新規項目を追加している。目的はニーズ量を出すことであるため、具体的な意見については自由記述欄をうまく活用

		<p>してほしい。</p> <p>項目に丸をつけるだけでは何が課題なのか探ることはできないが、不安を感じている方がどれくらいいるのかという量は調査できる。</p> <p>ここにいる皆様も是非友人等に「何かあったら自由記述欄に書いてほしい」とアナウンスして広めてほしい。</p>
	(委員)	<p>このアンケートは郵送で未就学児保護者には全員に配布し、小学生保護者には無作為に送られるのか。</p> <p>また、封書で届いて返信用封筒に入れなければならないのか。</p>
	(事務局)	<p>小学生（未就学のお子さんがある世帯を除く）全世帯に行き渡る。封書で届いて返信用封筒に入れて返していただく。</p>
	(委員)	<p>若い世代の方等はスマートフォンで答える方が楽と感じる。ポストに投函するのは面倒くさい。</p>
	(委員)	<p>(スマートフォンでできるようにすると)回収率も上がる。</p>
	(委員)	<p>G o o g l e フォームでも回答できるといいと感じる。</p>
	(委員)	<p>今回は難しいと思うが、5年後の次回調査ではスマートフォンに対応してほしい。集計も楽で、写真やリンクを貼ることもできる上、回答する側は寝転がりながらもできる。講座等も紙だと回収率が悪いからG o o g l e のフォームを活用していることが多い。外国にルーツを持つ家庭も増えているが、スマートフォンを使っているとそのままG o o g l e 検索に使うこともできるため、社会に対して疎</p>

	<p>(事務局)</p> <p>(会長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>外感を持っている方々の意見を拾えるのではない か。</p> <p>実際そのような人たち（スマートフォンによる調 査）で行っている自治体もあるが、予算オーバーに なってしまうので、今回は予算の範囲内で実施す る。</p> <p>今後インターネット上でアンケートを行うこと も考えている。</p> <p>学校の調査でもほとんどスマートフォンが主流 だと思っているため、5年後には確実にそのような 意見を参考にして予算化していくべき。そうすれば 回収率もあがるはず。</p> <p>アンケートがどのくらい回収されるのか。初めて みたときに感じたことは、できるだけ項目を少なく して必要最低限にし、回答する方々がアンケートに 答えることでどのくらいのメリットがあるか、ある いは回答してよかったと思えるかということが大 事になる。</p> <p>調査票に「いただいた回答は地域の子育て支援の 充実にかかせます」と書いてあることがポイント ではないかと思う。この調査をすることによって支 援の充実が図られるのだということと、知らなかつ た言葉が次々と出てくるため、このアンケートが支 援を知る1つの窓口のように感じた。個人的には最 初調査票をもらったときに、このアンケートがどの ようなことに役立つのか、強調されていて伝わりや すいことが大事になる。</p> <p>この調査は、どれくらいの瑞穂町の子どもが、保 育園や幼稚園に行きたいのかという量を図るとい うことを目的としている。その他にも延長保育や一 時預かり保育があり、幼稚園、保育園以外の13事</p>
--	---------------------------------------	--

		業のニーズを扱う調査でもあることから、アンケートはどのように役立っているのかを伝えるよう強調することを心掛けている。
	(委員)	個人的に気になっているのだが、瑞穂町で受験して私立の中学校に行く子どもの割合はどうか。
	(委員)	学年によって割合は異なるが、多く見積もっても1割程だろう。 例えば70人くらいの学年に7人くらいなのではないか。
	(会長)	全体的に他市より少ないのだろうか。 国立市や武蔵野市等に比べると明らかに少ない。 町内の中学校に進学する確率が高いと思う。
	(事務局)	国分寺市では、学校によっても異なるが、クラスの約半分が私立の中学校を受験すると聞いている。
	(委員)	そのような数字を聞いて、自分が小学生のときは私立中学を受験をする人はクラスに1人いるかどうかという感覚だったが、その当時と比べて最近は多いという話を聞いており、そのような情報があると嬉しい。
	(委員)	小学校受験について調べたときに、小学校から通学40分以内の場所に住んでないといけないと言われる。私立の学校が瑞穂町の近くにはあまりないため、そのようなことが影響していると思う。
	(委員)	私立の学校に行きたい子もいるけど、交通の便の悪さでいけない子たちの意見を反映させるべき。
	(会長)	モノレールが開通したら受験の状況にも変化があるかもしれない。では、ニーズ調査の方で何かあ

		<p>るか。</p>
	(委員)	<p>「設問事項確認表」から、区分において「今回新規」と「前回独自」があるが、「前回独自」は削られてしまうのか。</p>
	(事務局)	<p>グレーの部分(資料の削除項目)は削除とするが、それ以外は残す。</p>
	(委員)	<p>個人的な意見だが、調査票が凄くわかりやすく見やすくなっているのは大事だが、(未就学児) 6～7ページに細かく記入しなければならない欄が多く続いているため、書きづらく感じる。もう少し書きやすくなるといい。</p> <p>気合を入れて読み込まないと一発で理解できない。</p>
	(委員)	<p>1から3まで枠があるが、月曜日から金曜日まで子どもを保育園に預けているが、そのときと月曜日から土曜日まで預けるときの違いはどうか。</p>
	(委員)	<p>例えば、保育園に預けていながら、ファミリーサポートセンターも利用し、さらにその他の認可外保育園に預けなければならない場合もあるのではという考えだと思う。</p> <p>幼稚園に通いながら保育園に入れることはないが、幼稚園に通いながらファミリーサポートセンターを利用することはある。また、それ以外の認可外保育園に預ける場合もあるかもしれないということ。</p>
	(事務局)	<p>先ほどご意見があったが、スマホならすぐに理解し、回答できるかもしれない。</p>
	(委員)	<p>スマホがいい。</p>

	<p>(事務局)</p> <p>(委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(会長)</p> <p>(委員)</p> <p>(事務局)</p>	<p>例えば、全部の施設を入れて丸付けして次へ進んでもらうとか、そのような方法もあるが、紙面の都合上やむを得ず今の形になっている。</p> <p>四角の枠については、数字の部分を重視しており、それによって保育園だと短時間保育なのか、標準時間保育なのかと決まったりするため、そこを強調するためのものである。この問題は必須項目であり、まさに保育園のニーズ量の調査である。どうわかりやすくするか、期限が迫っている中でどこまでできるか検討していく。</p> <p>3行も必要あるのかと感じる。</p> <p>「当てはまるものすべて選ぶ」という項目に対して、3つの行なら回答をもらえると考えている。</p> <p>1週間のうちに1番使っている施設について書くようにするのであれば納得。3行あると何を書こうか迷う。</p> <p>認可保育所に行っている方が他の認定こども園は書かないはず。ただ幼稚園と幼稚園の預かり保育とファミリーサポートセンターの併用をしている方はいる。</p> <p>よくあるパターンとしては「例示」があるとわかりやすい。</p> <p>例を入れるのはわかりやすくして良い。</p> <p>例えば、幼稚園の預かり保育と選択する方がいれば、1番と2番を例示として挙げる等わかりやすくする。</p>
--	---	---

<p>(委員)</p>	<p>小学生保護者用の調査票の表紙について、以前のものは約830名抽出となっていたが、今回は約1,000名ということか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>当初1,000名の予定だったが、抽出の結果約800名になった。</p>
<p>(委員)</p>	<p>小学生保護者用の調査票のイラストについて、小学生らしくないイラストであるため、もう少し大きい年齢の子どものイラストの方がいいと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>「子ども家庭支援センターひばり」が選択肢にあり、そこで新しい施設を知る等、アピールする場に行けると、困っている人にも必要な支援を知って活用してもらえないかと思う。空いているスペースにイラストを載せるのではなく、ひばり等のQRコードが入ると良い。</p>
<p>(会長)</p>	<p>小学生保護者用の資料11ページを見てみると、イラストを貼るスペースがある。宮崎委員が言っていたようにそのようなスペースに施設の説明や写真等を記載することで、回答者が色々な情報を得ることができる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>小学生保護者用の問18について、「あった」場合1年の間で通算した場合なのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>そのとおり。</p>
<p>(委員)</p>	<p>仕方なく子どもを同行させた場合も「あった」に含まれるのか。ア～オの点線の中の合計数が「あった」場合という認識でいいか。保護者の用事（例えば結婚式に仕方なく子どもを同行させた）こともあったに含まれるのだろうか。</p>

	<p>(事務局)</p> <p>(委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(委員)</p> <p>(委員 2名)</p> <p>(会長)</p> <p>(全委員)</p> <p>(委員)</p> <p>(会長)</p> <p>4 その他</p>	<p>ウとエは「なかった」の方と考える。</p> <p>カッコ書きで預け先が見つからなかった場合も含めるって書いてあるから余計わからない。</p> <p>クロス集計をして、これがどう数字に反映されていくかということが問題だが、なかったら「いらない」でいいと思う。必要がある家庭とそうでなかった家庭で分けられるからだと考える。</p> <p>本当に必要がなかった場合と、保護者が連れていく場合で差が生まれまいだろうと考える。</p> <p>1年間だと覚えてられない。適当に書いてしまうかもしれない。</p> <p>これらの意見を参考にして要検討として進めていくかたちでよいか。</p> <p>異議なし</p> <p>問19について、「つらいと感じることが多い」と書かれた場合のアプローチだが、Googleフォームだと回答者のメールアドレスを記載できる記入欄があるため、そこからつらいと感じている人が町に詳しい内容を送ることができる体制を5年後の調査で作っていくべき。</p> <p>実際、様々な意見を聞いてみると、時間がない中でスマートフォン等の媒体を使うとさらに回答率が上がるというような素晴らしい意見をいただいた。ぜひ5年後に実現したい。</p>
--	--	--

	<p>(会長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(会長)</p> <p>(事務局)</p> <p><b>5 閉会</b></p> <p>(副会長)</p>	<p>瑞穂町の進学率等、調査以外で何かあれば意見を聞きたい。特になければ事務局から連絡事項をお願いする。</p> <p>次回の子ども・子育て会議の日程は令和6年2月下旬～3月上旬頃の予定である。</p> <p>そのときの議題をどうするか。</p> <p>今回のニーズ調査の報告について議論していく。第2期子ども・子育て支援事業計画進捗状況についても諮る。</p> <p>会長も仰っていたが、アンケートの回収率をあげるために委員の友人等にすすめる等、協力してほしい。そして自由欄をうまく活用して町には保護者の意見に耳を傾けてほしい。</p>
--	---	---